

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成25年7月4日(2013.7.4)

【公開番号】特開2011-209672(P2011-209672A)
 【公開日】平成23年10月20日(2011.10.20)
 【年通号数】公開・登録公報2011-042
 【出願番号】特願2010-160758(P2010-160758)
 【国際特許分類】

G 0 2 F 1/167 (2006.01)

B 0 1 J 19/00 (2006.01)

【F I】

G 0 2 F 1/167

B 0 1 J 19/00 N

B 0 1 J 19/00 K

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月16日(2013.5.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

〔形態 7〕 更に、形態 7 の電気泳動表示体は、形態 6 の電気泳動表示体において、前記両親媒性分子の封止膜は、ラウリン酸、ミリスチン酸、ペンタデシル酸、パルミチン酸、マルガリン酸、ステアリン酸、アラキジン酸、エライジン酸及びモノ不飽和脂肪酸のうちいずれか 1 の分子から形成される膜である。

このような構成であれば、上記両親媒性物質と疎水性の分散媒との双方の性質から、両親媒性分子の膜は、両親媒性分子の疎水基を疎水性の分散液に吸着させた状態の膜となる。

これにより、形態 6 と同様の作用及び効果が得られる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 5】

(実施例)

次に、本発明の封入方法を適用した一実施例を説明する。

本実施例において、基板 1 1 及び基板 1 7 として、上記した「東レ社製NXC1」を用い、隔壁 1 2 には「東京応化工業社製TMMR-S2000」を用いてフォトリソグラフィ法によりセル 1 3 の壁部（隔壁 1 2）のパターンを形成した。更に、分散系 1 4 として「分散媒：エクソン社製 IsoparM」に青色染料として「中央合成化学 Oil-Blue BA」を溶解し、白色粒子として「石原産業 CR-90」、分散剤として「松本油脂製薬株式会社製シルバン S-8 3」を用いた。

それぞれの組成は、「白色粒子：青色染料：分散剤：分散媒」＝「0.2 [g]：10 [mg]：0.1 [g]：1 [mL]」に調整した。

更に、LB膜 1 5 の材料（両親媒性物質）としてステアリン酸を展開溶媒であるジイソプロピルエーテルに「0.2 [wt%]」で溶解させて展開液 3 3 とした。